

step up

2025 校内研修通信

4年生道徳「『ありがとう』の言葉」(内容項目 B礼儀)でのチャレンジ授業です。本時の言語活動は、主人公「ひろし」が「ありがとう」について考えたことについて、自分の考えをネームプレートをを使って示し、それをもとに、ペアで交流を繰り返します。

導入では、「あいさつ」について考えました。「いいあいさつとは、どんなあいさつですか。」の先生の発問に、「笑顔」「明るく元気に」「相手の顔を見て」「気持ちをこめて」などの意見が出ました。「今日は、さらにレベルアップして、『最高のあいさつ』を見つけましょう。」と本時の展開へ進みました。

意見が出にくいときは、「1分だけペアで」と臨機応変にペア交流を入れていました。ちょっと、友だちと相談することで、自分の考えに自信が持てます。そのあとは、挙手をする子が増えていました。



中心発問では、主人公「ひろし」の感情(気持ち)の表情を選んで、ネームプレートを貼りました。

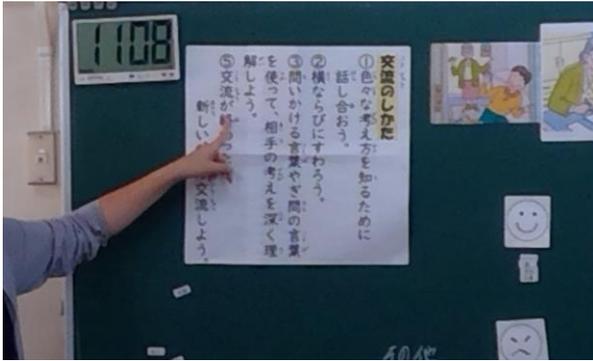


まずは、主人公「ひろし」の気持ちをワークシートに書き、自分の考えをまとめました。おばあちゃんに「ありがとう」の意味を教えてもらって、ひろしはどう思ったかを考えています。

ネームプレートを使って、自分の考えを示します。

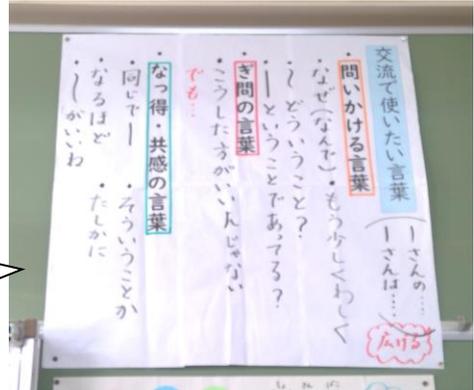
交流相手は、黒板を確認しながら、選びます。





交流の仕方(手順)を説明します。

「問いかける言葉」や「疑問の言葉」を使うように促します。教室には、「交流で使いたい言葉」が掲示してあり、いつでも確認できるようになっていました。



交流を繰り返すことで、自分の考えが変わって、ネームプレートを貼り変える子もいました。ワークシートを読みながら、積極的に考えを伝える姿が見られました。

全体交流では、「ペア交流をして、私は、～と思ってたけど、〇〇さんは、こんな考えだった。」というように、発表していました。「〇〇さんの意見がいいな、と思いました。」とか「〇〇さんは、～と書いていてすごいと思った。」というように、友だちの考えに触れることで、自分の考えを広げることができていました。

学習の振り返りでは、「どんなふうに自分のあいさつがレベルアップするか書きましよう。」と書くための視点を示されていました。

授業者より

自分とは違う考えの人と交流することで、多様な考え方にふれてほしいという思いで取り組みました。自分の意見を周りの人に伝えることが苦手な児童も多いので、ネームプレートの活用は全員参加の方法の一つとして有効だと感じました。議題に対して、意見が二極化できる場面でネームプレートを使った話し合いができると、もっと交流が活発になるのではと感じました。